

## 《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。



## 《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。



・検査・病理センター長

すながわけいしん  
砂川恵伸

検査科部長として入職し、臨床検査、病理および内科・感染症の専門医として勤務しました。

私は琉球大学卒業後、沖縄県立中部病院で研修し、伊江村立診療所と県立宮古病院に勤務しました。その後上京し、病理学と臨床検査医学を学びました。2020年より埼玉協同病院に臨床検査科部長として入職し、臨床検査、病理および内科・感染症の専門医として勤務しました。

今回、伊泊広二病院長、横矢隆宏副理事長から「一緒に沖縄で働きませんか」と熱心に誘われ、21年振りに帰郷しました。沖縄協同病院では「検査・病理センター長」という私の実践してきた医療に合致した役職を拝命しました。臨床(特に感染症)と臨床検査・病理を行き来し、チームで医療に取り組んでいくことが私の理想です。これまで行ってきた様々な視点から医療に取り組んで参ります。どうぞ宜しくお願ひ致します。

## 新任医師挨拶



・内科・

おおしろとしき  
大城俊貴

みなさま初めまして。4月より勤務させていただいている大城俊貴と申します。那覇市出身で、東北大学医学部を卒業し、初期臨床研修より沖縄へ戻ってきました。友愛医療センター、豊見城中央病院、琉球大学病院、沖縄県立北部病院を経て、沖縄協同病院総合内科で診療に当たっております。

患者さんの病気だけではなく、生活環境や周囲のサポート体制、どのようにすれば退院してからも元気に過ごしてもらえるか、など「一人の人間」として包括的に捉えることの重要性と、その難しさを日々痛感しています。

休日は友人と食事に出かけたり、最近ハマっているキャラクターのグッズを買ったりしています。友人との何気ない会話の中にも仕事で役立つ内容があるので、とても大事な時間だと思っています。名札や聴診器にキャラクターをたくさん付けて、仕事中の癒やしにしています。

慣れない環境でご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、患者さんのみなさまの力になれるよう精一杯務めていく所存です。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。



## 〈ご意見〉

入院セットの受付時間帯について、時間外で利用できない場合は何とかできないか?



## 〈ご回答〉

入院セット運用について貴重なご意見ありがとうございます。

ご指摘頂きました、入院セット受付ブースの対応時間についてご返答致します。

残念ながら、受付ブースの対応時間を延長することは難しいのですが、対応時間外については各病棟において利用申し込みを行うことが出来るよう調整しております。受付ブースの対応時間にご来院が難しい場合は、気軽に病棟職員へ声かけお願い致します。

事務管理部 次長 屋良樹一

病院の活動状況  
<2023年4月度>

- ・外来一日平均患者数：282人  
(前年同月比 -47人)
- ・入院一日平均患者数：243人  
(前年同月比 +15人)
- ・組合員利用分量(率)：58.9%  
(前年同月比 +3.5%)

## 排尿の問題(切迫性尿失禁)

196 泌尿器科より



「排尿の問題」を抱える患者さんは「年のせい」と諦めたり、羞恥心から病院受診をためらう傾向にあります。特に尿失禁は「患者が医師に最も相談しにくい症状」のひとつです。

尿失禁のひとつである切迫性尿失禁は急に尿がしたりなり、我慢できずに漏れてしまいます。玄関やトイレのドアを開ける時、下着を下げる時など、あともう少しというところで漏れてしまします。また、炊事洗濯、洗顔など水への接触や水音が引き金となって尿が漏れてしまうこともあります。そのため、尿失禁の不安を常に感じ、外出時には常にトイレのことを気にかけ、旅行やドライブなどの遠出を避け、団体行動を避け、水分摂取を控え、映画ではトイレに近い場所に座り、尿が漏れても目立たない服装をするなどの行動がみられます。

切迫性尿失禁の治療としては、膀胱訓練(尿意を我慢することで、少しずつ排尿間隔を延長していく練習)が個人でできる第一の手段になります。内服治療としては、β3作動薬(ベタニスやベオーバー)が初期治療となり、効果が弱い場合は抗コリン薬(トリエース、ソリフエナシン、イミダフェナシンなど)に変更します。内服治療で効果が無い時は、ボツリヌス毒素を膀胱壁内に注入して膀胱の筋肉を弛緩させる治療法もあります。このボツリヌス毒素の効果持続期間は過活動膀胱で4~8か月ですので、繰り返し注入する必要があります。

頻尿や尿失禁といった「排尿の問題」は加齢とともに増加していきます。本邦では今後20年は尿に問題を抱える高齢者が増加していくことが予想されています。将来的には「排尿の問題」が以上に一般的になり、「恥ずかしい症状」という概念もなくなってくるでしょう。「排尿の問題」は一人で悶々と悩んでもなかなか改善しないので、泌尿器科医や排尿ケアチームのスタッフに相談し、症状改善へつなげて行きましょう。

泌尿器科部長

嘉手川

豪心

# 帰任医師挨拶



・小児科・

あんどうふみえ  
**安藤 美恵**

昨年1年間、名護療育医療センターと国立病院機構琉球病院児童精神科で、発達障がいや子どものこころの診療を学び、今年4月に帰任しました。

発達外来に来る子ども達には、よく驚かされます。4歳までことばがでなかつた子が大人顔負けの知識豊富な博士ちゃんになっていたり、令和のピカソと言われるほどの絵画の才能のある子もいたり。子ども達は、大人をよく観察していますし、大人よりしっかりした考え方を持っている子ども達も多くいます。一方で、その大きな個性をうまく分かり合えず、悩みやトラウマを抱え、不登校になった子ども達や、支援不足で子育てに困難を抱えているご家庭もあります。

発達外来とは、発達障がいの診断を目的とした外来ではなく、子ども達が自尊心を低下させることなく、自分らしい自立した生活を送ることを一緒に目指していく外来です。

「みんなちがって、みんないい(金子 みすゞ)」「泣いて暮らすも一生、笑って暮らすも一生」。昨年一年間、北部地区で沢山の個性的な可愛い子ども達に出会いました。今後は那覇・南部地区の可愛い子ども達に出会えることを楽しみにしています。



・外科・

ひらた ゆういちろう  
**平田 勇一郎**



・心療内科・

ひが ゆたか  
**比嘉 大**

沖縄協同病院外科の平田と申します。私は、沖縄協同病院で研修後3年間外科に勤務し、2020年4月から2023年3月まで岩手医科大学附属病院外科に国内留学に行ってまいりました。

岩手医大は、元々岩手県盛岡市にありました。2019年9月より矢巾町という盛岡から3駅ほど離れた町に移転した、病棟数1000床の病院です。私が外科1年目の時に、大腸手術の第一人者の一人である岩手医大の大塚幸喜先生のもとに手術見学にいったことが縁で、国内留学を決意しました。雪国に住むのは初めての経験であり、日々の診療に加え雪下ろしや冬タイヤ交換、水道管破裂防止の水抜きなど雪国独特の生活にも触れ貴重な3年間となりました。

学んだことを生かし4月からまた協同病院で頑張っていきますので、宜しくお願ひいたします。

こんにちは。4月から心療内科へ帰任した比嘉大といいます。

生まれは諂谷村、出身大学は長野県にある信州大学であり、学生時代より沖縄県民医連奨学生として過ごしました。大学卒業後2016年から沖縄協同病院で3年間初期研修含め勤務し、2019年から琉球大学病院精神科神経科へ出向し、この度専門医を取得し帰任しました。

『心療内科』に耳に馴染みがない方もまだ多いかと思いますが、現在の主な業務としては入院により環境が大きく変わった患者さんの「眠れない」、「ワサワサする」、「休まらない」といった困りごとに対し話を聞き、必要に応じて主治医と相談し薬の調整を行い治療に集中できる環境作りを行っています。外来については当面これまで同様制限しておりますのでご理解いただければと思います。

まだ力及ばない面も多いかと思いますが、より安心できる入院環境づくりのお手伝いができるよう努めてまいります。よろしくお願いします。

## 部署紹介

### ⑭ 栄養管理室

栄養管理室は入院患者様の治療食提供の他に、入院患者様の栄養管理、栄養サポートチーム(NST)、入院・外来栄養指導、糖尿病教育入院、食物アレルギー負荷試験等の業務を行っています。

治療食は患者様の全身の栄養状態や疾患の状態、また食習慣や摂食能力等を判断し、医師の指示のもと、提供しています。また、当院の給食はクックチルシステムという方法で調理し、美味しい、安全な食事を提供できるよう心がけています。



栄養管理室 室長 近藤 幸祐



本」「沖縄から見た日本」の的确に表現して本」を軍事大国に変える」という見出しが出した(外務省が異議を唱えて記述が変更されたが...)。そして沖縄タイムス紙には「台湾有事は沖縄有事」安心してください。本土は無事ですよ」とにかく明るい斎藤法務大臣。という風刺が...。2紙のこの言葉は「世界から見た日本」を軍事大国に変える」という見出しが出した(外務省が異議を唱えて記述が変更されたが...)。そして沖縄タイ

ハルサー  
金城 稲子

## 委員会活動報告 13.クリニカルパス委員会

組合員のみなさま、はじめまして。今回は沖縄協同病院クリニカルパス委員会の取り組みを紹介させていただきます。

入院した経験のある組合員さんはご存知かもしれません、「クリニカルパス」と聞いて、何のこと?と初めて耳にした方が多いかもしれません。

「クリニカルパス」の基本的な目的は「標準化」にあります。

入院から退院までの治療や検査・ケア項目など複雑な診療行為をスケジュール表として整理し、標準的な診療計画を見える化しています。「クリニカルパス」により、患者さんは治療過程を知ることができ、入院生活の不安が軽減するなど、安心して検査や治療を受けることにつながっていると考えます。また、医療スタッフも患者さんやご家族に検査や治療内容、そのスケジュールなどを説明しやすくなります。

疾患ごとに内容を見直し、より分かりやすく皆様に提供できるよう、これからも委員会メンバー力を合わせて取り組んでいきます。よろしくお願い致します。

クリニカルパス委員会 潮平 美奈子(8階病棟師長)

ハルサー  
だより<sup>⑯</sup>

インゲンは八寸豆(ハツヌー)とも言い、冬が旬の豆で、ササゲは三尺豆(サンジャク)とも呼ばれ、夏が旬の豆である。私は豆類が好きなのでハツヌーもサンジャクも毎年栽培し、不作の年を見越して3年分の種を冷蔵庫に保存している。